

**委託事業実施内容報告書**  
**平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業**  
**【地域日本語教育実践プログラム(B)】**  
**実施内容報告書**

受託団体名 学校法人ムンド・デ・アレグリア学校

**1. 事業名称**

・相互理解のための日本語教育体制整備推進事業

**2. 事業の目的**

「生活者としての外国人のための日本語教育事業」地域日本語教育実践プログラムBにおいては、日本語習得という言語面だけでなく、「生活者としての外国人」を日本の社会へどのように「繋ぐ」ことができるかという体制づくりが大きな事業目的である。本事業では、以下を目標とし事業を実施する。

1. 定住外国人と日本人がお互いを知り、理解し合い、外国人が出来るだけ摩擦が少なく日本社会に参加できるように、日本語を通じた相互理解・協働活動できる機会を創出する。
2. 日本語指導だけでなく、日本社会の常識・マナー・習慣などを伝えることで、社会の中で役立つ適切な日本語の運用能力の向上を目指す。
3. 次世代を担う日本語能力のある定住外国人が日本人と共に積極的に本事業の企画・運営に関わらせる機会を創出し、主体的に共にひとつの活動に取り組む過程で日本語運用能力を磨き、日本語指導の必要な外国人に対する支援が出来るような外国人リーダーの  
人材育成を目指す。
4. 大学生の日本人を中心に外国人と共に行うプロジェクトワーク、及び日本語支援を通して学んだことを外部発信することで、地域住民の外国人・異文化への理解を促進する。
5. これらの外国人・日本人住民が共に取り組む事業を地域の自治体をはじめとする関係機関を巻き込んで実施することにより、外国人住民の状況や日本語教育の必要性や学習の成果・効果を広く住民に周知することで、日本語教育の体制整備への土台を構築する。

**3. 事業内容の概要**

外国人が多く集う学校現場を拠点とし、ポルトガル語圏の外国人、スペイン語圏の外国人との相互理解に日々奮闘している本校のノウハウを生かして、日本人と外国人がお互いを知る機会を設け、日本人＝支援者、外国人＝受益者ではなく、双方が協力し合える活動を引き続き提供することで相互理解を目指す。浜松においては、第二世代の定住外国人の若者も多く、日本社会で活躍できる可能性のある者も出てきている。彼らを、本事業の取組の企画・運営に積極的に関わらせることで、外国人である彼ら自身が支援が必要な外国人を支援し、彼ら自身も活動が自分たちの異文化理解・多文化共生の実体験の場、そして日本語運用能力にさらに磨きをかける場になるようにする。

具体的には、取組1では、次世代を担う外国人と日本人が協働によるイベントを企画・運営から作りあげる。また、外国人・日本人の相互の視点から意見交換し新しい日本語学習に必要な教材を作成し、取組2の日本語教室に活用する。この2つのプロジェクトワークを実施し、プロジェクトワークでの成果及び取組2でのフィールドワークの成果をポスター発表として外部発信する。取組2では、外国人に関心の高い防災・緊急時(AED講習・緊急時通報)の体験活動、交通ルール講習、文化体験(ダンス・書道・料理など)を通して日本の文化・習慣・マナー・ルールを学ぶ。

**4. 事業の実施体制について**

コーディネーター(岡)は本事業の総責任者であり、事業内容及び運営委員会の企画・運営を行う。また、取組1で育成する人材、作成する教材をどのように取組2に生かしていくかをコーディネートする。さらに取組2での日本語指導者の統括及び日本語指導を行う。

コーディネーター(松本)は取組1でのアドバイザー及び自治体・地元自治会・企業・教育関係者などとのさらなる連携体制整備を構築のためのコーディネートを担当する。

指導者(芦澤)は取組1・2の活動の日程調整・学習者募集・日本語指導者・外部講師との調整など、及び取組2の日本語指導を行う。

指導者(鈴木)は防災・緊急時対応の企画・運営を担当する。

松本・芦澤・岡は事業の企画・内容・経過、連携体制整備について定期的にミーティングを実施し情報共有に努める。

芦澤・鈴木は活動内容について定期的に打ち合わせをし、芦澤がコーディネーターとのミーティングにて内容を報告する。

## 5. 運営委員会の開催について

### 【運営委員】

|    |       |                       |
|----|-------|-----------------------|
| 1  | 坂田 英夫 | 雄踏地区社会福祉協議会           |
| 2  | 奥田 等  | 浜松市雄踏地区自治会連合会         |
| 3  | 太田 俊樹 | 浜松市企画部国際課             |
| 4  | 石塚 良明 | 浜松市企画部国際課             |
| 5  | 高畑 幸  | 静岡県立大学国際関係学部          |
| 6  | 瀧本 育枝 | 浜松市雄踏中学校              |
| 7  | 鈴木 直樹 | 浜松市雄踏小学校              |
| 8  | 鈴木 直之 | 西区災害ボランティアコーディネーター連絡会 |
| 9  | 松本 雅美 | 学校法人ムンド・デ・アレグリア学校     |
| 10 | 岡 則子  | 学校法人ムンド・デ・アレグリア学校     |

### 【概要】

| 回数 | 開講日時                         | 時間数 | 場所            | 出席者                                             | 議題及び検討内容                                  |
|----|------------------------------|-----|---------------|-------------------------------------------------|-------------------------------------------|
| 1  | 平成27年5月13日(水)<br>13:00～15:00 | 2時間 | ムンド・デ・アレグリア学校 | 石塚良明・太田俊樹・坂田英夫・奥田等・高畑幸・鈴木直之・鈴木直樹・瀧本育枝・松本雅美・岡 則子 | 1. 取組内容検討<br>2. 「おんがくまつり」実施への協力をお願い       |
| 2  | 平成27年12月1日(火)<br>13:00～15:00 | 2時間 | ムンド・デ・アレグリア学校 | 石塚良明・太田俊樹・坂田英夫・奥田等・高畑幸・鈴木直之・松本雅美・岡 則子           | 1. 取組中間報告<br>2. 「おんがくまつり」に向けての広報・集客等の意見交換 |
| 3  | 平成28年3月4日(金)<br>13:00～15:00  | 2時間 | ムンド・デ・アレグリア学校 | 石塚良明・太田俊樹・坂田英夫・奥田等・高畑幸・鈴木直之・松本雅美・岡 則子           | 1. 取組完了報告<br>2. さらなる連携体制構築のための意見交換・課題検討   |

6. 取組についての報告

取組1：(次世代を担う外国人と日本人によるプロジェクトワーク)

(1) 体制整備に向けた取組の目標

定住化が進み、在日年数が長く日本語能力のある外国人も少なくないが、会話の進め方、スタイル、マナーなどは国により違うため、自国のスタイルで日本語での会話を進めようと、日本語能力がある故に日本人に誤解を受けるケースも少なくない。また、国際関係、多文化共生、日本語教育を学んでいる日本人の学生もフィールドワークできる機会が少ないのが現状である。当団体は持ち得るリソースを活用し、このような課題を解決するために日本人と外国人がプロジェクトワークを協働で行うことにより、「座学」ではなく、「行動・体験中心の活動」として、以下のことを実現できることを目標とする。

1. 日本社会での会話の進め方、話し方のマナーや敬語の使い方など自ら体験しながら習得し日本語運用能力の向上を図る。
2. 外国人と日本人が協働によるイベントを企画・運営から作り上げ、主体的に携わることで相互理解を促進する。
3. 日頃外国人や日本語教育と関わりがない地元の住民の方々に日本人と外国人が協力して実施するイベントに参加してもらうことにより異文化・多文化共生への関心を持ってもらう。
4. プロジェクトワークを通して、大学生を中心として今後の日本語教育に必要な人材育成を行う。
5. 日本語の学習経験のある外国人自らが、文字指導に有効な教材のアイデアを提供し、新しい視点での教材を作成し、取組2の日本語指導に活用する。

(2) 取組内容

第2世代を担う日本人と外国人が協働しながら以下のプロジェクトを実施する。

- (1) 教材開発(スペイン語版・ポルトガル語版ひらがな表作成)
- (2) 成果発表会企画・運営・実施

(3) 対象者

第2世代を担う日本人と外国人

(4) 参加者の総数 49 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 27 人 ※

【出身・国籍別内訳】

|      |     |        |     |  |
|------|-----|--------|-----|--|
| 中国   | 人   | インドネシア | 人   |  |
| 韓国   | 人   | タイ     | 人   |  |
| ブラジル | 19人 | ペルー    | 11人 |  |
| ベトナム | 人   | フィリピン  | 1人  |  |
| ネパール | 人   | 日本     | 18人 |  |

(5) 開催時間数(回数) 22.5 時間 (全 11回うち1回は成果発表会)

(6) 活動の具体的内容

| 回数 | 開催日時                          | 時間数 | 場所            | 参加者数 | 取組のテーマ              | 授業概要                                        | 指導者名           | 補助者名                                              |
|----|-------------------------------|-----|---------------|------|---------------------|---------------------------------------------|----------------|---------------------------------------------------|
| 1  | 平成27年8月25日(火)<br>13:30~15:30  | 2   | ムンド・デ・アレグリア学校 | 49人  | 教材開発<br>「おながくまつり」実施 | スペイン語版・ポルトガル語ひらがな表作成<br>「おながくまつり」実施に向けての説明  | 岡 則子<br>松本 雅美  | なし                                                |
| 2  | 平成27年8月26日(水)<br>8:30~10:30   | 2   | ムンド・デ・アレグリア学校 | 22人  | 教材開発<br>「おながくまつり」実施 | スペイン語版・ポルトガル語ひらがな表作成<br>ダンスプロジェクト・日本語活動計画作成 | 岡 則子<br>松本 雅美  | なし                                                |
| 3  | 平成27年8月26日(水)<br>13:30~15:30  | 2   | ムンド・デ・アレグリア学校 | 49人  | 教材開発<br>「おながくまつり」実施 | スペイン語版・ポルトガル語ひらがな表作成<br>ダンスプロジェクト・日本語活動計画作成 | 岡 則子<br>松本 雅美  | 清原 由菜<br>鈴木 ゆりあ<br>胸組 真子<br>岩崎 璃乃                 |
| 4  | 平成27年8月27日(木)<br>8:30~10:30   | 2   | ムンド・デ・アレグリア学校 | 22人  | 教材開発<br>「おながくまつり」実施 | スペイン語版・ポルトガル語ひらがな表作成<br>「おながくまつり」内容検討       | 岡 則子<br>松本 雅美  | なし                                                |
| 5  | 平成27年8月27日(木)<br>13:30~15:30  | 2   | ムンド・デ・アレグリア学校 | 49人  | 教材開発<br>「おながくまつり」実施 | スペイン語版・ポルトガル語ひらがな表作成<br>「おながくまつり」内容検討       | 岡 則子<br>松本 雅美  | なし                                                |
| 6  | 平成27年11月22日(日)<br>13:00~15:00 | 2   | ムンド・デ・アレグリア学校 | 15人  | 「おながくまつり」実施         | 「おながくまつり」プログラム検討<br>出演団体決定・交渉<br>ポスター発表者検討  | 岡 則子<br>松本 雅美  | なし                                                |
| 7  | 平成27年11月23日(月)<br>8:30~10:30  | 2   | ムンド・デ・アレグリア学校 | 15人  | 「おながくまつり」実施         | 「おながくまつり」プログラム検討<br>出演団体決定・交渉<br>ポスター発表者検討  | 岡 則子<br>松本 雅美  | 岩崎 璃乃<br>三宅 ひかる<br>前川 佳穂<br>前川 ヒデキ<br>坂下 歩惟<br>村田 |
| 8  | 平成27年12月15日(火)<br>13:30~15:30 | 2   | ムンド・デ・アレグリア学校 | 15人  | 「おながくまつり」実施         | チラシ作成(日本語版・ポルトガル語版・スペイン語版)                  | 松本 雅美<br>芦澤 美香 | なし                                                |

|    |                                  |     |                   |      |             |                                |               |                                                                                |
|----|----------------------------------|-----|-------------------|------|-------------|--------------------------------|---------------|--------------------------------------------------------------------------------|
| 9  | 平成28年2月11日<br>(木)<br>13:30～15:30 | 2   | ムンド・デ・アレ<br>グリア学校 | 10人  | 「おんがくまつり」実施 | 台本作成・司会者決定                     | 岡 則子<br>松本 雅美 | 坂下 歩惟<br>高原 紀子<br>小林 由依<br>川口 祐季<br>前川 ヒデ<br>キ<br>坂下 歩惟<br>三宅 ひか<br>る<br>前川 佳穂 |
| 10 | 平成28年2月20日<br>(土)<br>10:00～12:00 | 2   | 雄踏文化セン<br>ター      | 20人  | 「おんがくまつり」実施 | 「おんがくまつり」・ポスター発表最終<br>打ち合わせ    | 岡 則子<br>松本 雅美 | 村松 飛鳥<br>坂下 歩惟                                                                 |
| 11 | 平成28年2月20日<br>(土)<br>13:00～15:30 | 2.5 | 雄踏文化セン<br>ター      | 208人 | 「おんがくまつり」実施 | 「おんがくまつり」本番<br>音楽発表会<br>ポスター発表 | 岡 則子          | フジイジャ<br>ケリーニ<br>長谷川晃子<br>出野利明                                                 |

## (7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

### 活動例①

【第5回 平成27年年8月27日】

スペイン語版・ポルトガル語版ひらがな作成プロジェクト

出来上がったひらがな表のスペイン語及びポルトガル語のひらがな表を、様々な年齢の外国人の子どもたちに見せ、描かれている絵からスペイン語・ポルトガル語をイメージできるか検証し、修正を加え完成させた。



### 活動例②

【第10回 平成28年2月20日】

地元の「雄踏吹奏楽団」、「少女和太鼓魁鼓」そして静岡県立大学ダンスサークル「ジェネシス」も出演していただき、プロジェクトワークで企画した「雄踏おんがくまつり」を開催。おんがくまつりの後は、ポスターセッションを行った。



(8) 目標の達成状況・成果

1. ダンスプロジェクト及び、成果発表会である「雄踏おんがくまつり」の計画・実施に向けて、第2世代を担う日本人と外国人が話し合いを重ね、活動を共に行っていく中で、お互いに理解を深めることができた。
2. 日本人学生の学びとして、外国人と共にプロジェクトワークに関わることによって、在日外国人の教育問題、バイリンガル教育、地域社会と移民コミュニティの関わり、エスニックアイデンティティの保持などに関心を持つことができた。
3. ひらがな表作成においては、スペイン語やポルトガル語を専攻している大学生と外国人の子どもたちとの共同作業を実現することができた。また、この協働活動においては、日本語能力のない子供たちでも作業に参加してもらうことができたため、彼らがひらがなに興味を持つきっかけとすることもできた。
4. 本プロジェクトの学びを、成果発表会においてポスター発表することにより、自分たちの学びを自らが振り返ることができたと共に外部に発信することができた。
5. 「雄踏おんがくまつり」には地元団体も出演していただき、チラシ・広報においても自治会・近隣小・中・高校の協力も得ることができ、広報活動・出演団体交渉・成果発表等を通してさらなる連携体制構築ができた。

(9) 今後の改善点について

今後もこのような第2世代の日本人と外国人が協働で活動できる成果発表を実施していくことは、日本人学生の学びにも外国人の日本語能力向上にも非常に有効であることは今回実感できたことではあるが、成果発表を実施する時期においては、再考する必要がある。なぜなら、小・中・高校、大学を巻き込んで成果発表を1月・2月に実施したい場合、小・中・高校、大学とも試験・受験・卒業・就職活動などの時期となり、活動が制限され、連携が取りにくい期間となってしまうため、より多くの人が成果発表に関われない状況となってしまう。夏から秋の期間に組み込みの成果発表をすることができればいいが、単年度申請の今の状況においては、取組開始時期が4月とはならないため、夏から秋の比較的教育施設が動きやすい時期に成果発表会を開催することが非常に難しい状況である。今後は、このような「行動・体験中心の活動」がフィールドワークとして大学の単位として認められるように働きかけていく必要がある。

取組2：(活動を通して学ぶ日本語)

(1) 体制整備に向けた取組の目標

本取組においては通常の日本語教室ではなく、まず、楽しく「つどう」ことができる場を提供し、その中で日本語を「まなび」、日本人と外国人が相互に関係を「むすぶ」ことを目標にする。そして、「つどう」「まなび」「むすぶ」ことで人づくり・地域づくりを目指す。

(2) 取組内容

「つどう」 ・外国人に興味のあるまたは必要な活動(ダンス・太鼓・お茶・書道・交通ルール・防災・緊急時体験等)を創出する  
・活動指導を地域の方々に依頼し、活動への参加を促す。

「まなび」 ・日本の文化・習慣・マナーを活動を通して学ぶ  
・日本で生活する上で必要な知識(交通ルール・防災・緊急時対応等)・文字(ひらがな・カタカナ・漢字)を学ぶ

「むすぶ」 ・活動を共にすることで地域住民と日本人をむすぶ。  
・外国人が日本語習得をすることで外国人と社会をむすぶ。

本取組における日本語指導は、日本語教室のようにレベル別での指導ではなく、様々なレベルの外国人の参加が予想される。その場合、指導者一人では日本語の指導の対応が難しいため、取組1のプロジェクトワークに関わった日本人・外国人が日本語指導のアシスタントを行う。

(3) 対象者

外国人

(4) 参加者の総数 188 人(延べ人数ではなく、受講した人数を記載すること。)

そのうちの日本語学習者数 160 人

【出身・国籍別内訳】

|      |      |        |     |           |
|------|------|--------|-----|-----------|
| 中国   | 人    | インドネシア | 人   |           |
| 韓国   | 人    | タイ     | 人   | ・コロンビア 1人 |
| ブラジル | 121人 | ペルー    | 37人 | ・         |
| ベトナム | 人    | フィリピン  | 1人  | ・         |
| ネパール | 人    | 日本     | 28人 |           |

(5) 開催時間数(回数) 62時間 (全 31回)

(6) 取組の具体的内容

| 回数 | 開催日時                             | 時間数 | 場所            | 参加者数 | 取組のテーマ    | 授業概要                                      | 指導者名           | 補助者名                                        |
|----|----------------------------------|-----|---------------|------|-----------|-------------------------------------------|----------------|---------------------------------------------|
| 1  | 平成27年7月8日<br>(水)<br>14:00～15:00  | 1   | ムンド・デ・アレグリア学校 | 33人  | 交通安全教室    | 日本で生活する上で覚えておきたい自転車走行時の交通ルールをシミュレーターを使い学ぶ | 片野佐知子          | 芦澤美香                                        |
| 2  | 平成27年7月15日<br>(水)<br>14:00～15:00 | 1   | ムンド・デ・アレグリア学校 | 31人  | 交通安全教室    | 歩行者のマナーや交通ルールを学ぶ。                         | 片野佐知子          | 芦澤美香                                        |
| 3  | 平成27年7月21日<br>(火)<br>9:30～10:30  | 1   | ムンド・デ・アレグリア学校 | 51人  | 非行防止教室    | 使用しない・巻き込まれないために身に付けておきたい薬物の知識を学ぶ         | 片野佐知子          | 芦澤美香                                        |
| 4  | 平成27年8月19日<br>(水)<br>14:00～15:00 | 1   | ムンド・デ・アレグリア学校 | 29人  | 非行防止教室    | 使用しない・巻き込まれないために身に付けておきたい薬物の知識を学ぶ         | 片野佐知子          | 芦澤美香                                        |
| 5  | 平成27年8月26日<br>(水)<br>10:30～12:30 | 2   | ムンド・デ・アレグリア学校 | 33人  | ダンスプロジェクト | ダンス練習<br>名札に日本語で名前を書き、自己紹介の方法を学ぶ。         | 岩崎 璃乃          | 芦澤美香<br>タケハナエルザ<br>清原 由菜<br>鈴木 ゆりあ<br>胸組 真子 |
| 6  | 平成27年8月27日<br>(木)<br>10:30～12:30 | 2   | ムンド・デ・アレグリア学校 | 24人  | ダンスプロジェクト | ダンス練習。日本語を使ったゲームを取り入れ、楽しみながら日本語の表現を学ぶ。    | 岡則子            | 芦澤美香<br>出野 利明                               |
| 7  | 平成27年8月29日<br>(土)<br>13:00～15:00 | 2   | ムンド・デ・アレグリア学校 | 10人  | 防災教室      | ハザードマップや防災マップの見方を学び、自分の住んでいる地域の特性を学ぶ。     | 鈴木直之<br>芦澤美香   |                                             |
| 8  | 平成27年9月7日<br>(月)<br>13:00～15:00  | 2   | ムンド・デ・アレグリア学校 | 12人  | 防災教室      | 災害に関する語彙をイラストカードを用いながら学ぶ。                 | 鈴木直之<br>芦澤美香   |                                             |
| 9  | 平成27年9月22日<br>(火)<br>10:30～12:30 | 2   | ムンド・デ・アレグリア学校 | 22人  | ダンスプロジェクト | ダンス練習。方向を示す表現や、日本語での質問の仕方を学ぶ。             | 前川ヒデキ<br>三宅ひかる | 芦澤美香<br>タケハナエルザ                             |

|    |                                   |   |                   |     |           |                                                                                 |                                     |                                       |
|----|-----------------------------------|---|-------------------|-----|-----------|---------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|
| 10 | 平成27年9月23日<br>(水)<br>10:30～12:30  | 2 | ムンド・デ・アレグリア学<br>校 | 25人 | ダンスプロジェクト | ダンス練習。自分の意見や提案を日<br>本語で伝える方法を学ぶ。                                                | 前川ヒデキ<br>三宅ひかる                      | 芦澤美香                                  |
| 11 | 平成27年9月23日<br>(水)<br>13:00～15:00  | 2 | ムンド・デ・アレグリア学<br>校 | 21人 | 防災教室      | 災害時に役立つグッズを身の回りに<br>あるものを使って代用する。新聞紙で<br>簡易スリッパを作成。                             | 鈴木直之<br>芦澤美香                        |                                       |
| 12 | 平成27年10月7日<br>(水)<br>13:00～15:00  | 2 | ムンド・デ・アレグリア学<br>校 | 20人 | 防災教室      | 災害時の情報収集方法を学ぶ。                                                                  | 鈴木直之<br>芦澤美香                        |                                       |
| 13 | 平成27年10月12日<br>(月)<br>13:30～15:30 | 2 | ムンド・デ・アレグリア学<br>校 | 12人 | 防災教室      | 津波のイメージ訓練。ピンポン玉を<br>使って液状化を学ぶ。                                                  | 鈴木直之<br>芦澤美香                        |                                       |
| 14 | 平成27年11月3日<br>(火)<br>10:30～12:30  | 2 | ムンド・デ・アレグリア学<br>校 | 27人 | ダンスプロジェクト | ダンス練習。成果発表会に向け、グ<br>ループに分かれ、案内用ポスター制<br>作。日本語でのプレゼン練習。                          | 岡則子<br>(1時間)<br>三宅ひかる<br>坂下 歩惟      | 芦澤美香<br>タケハナエ<br>ルザ                   |
| 15 | 平成27年11月3日<br>(火)<br>13:00～15:00  | 2 | ムンド・デ・アレグリア学<br>校 | 20人 | 防災教室      | 避難所での生活を知る。予想される<br>問題など学習者どおしで話し合う。                                            | 鈴木直之<br>芦澤美香                        |                                       |
| 16 | 平成27年11月21日<br>(土)<br>11:30～14:30 | 3 | ムンド・デ・アレグリア学<br>校 | 34人 | 交通安全教室    | チャイルドシートの重要性や自国と日<br>本との車のマナーや交通ルールの違<br>いを親子で学ぶ。                               | 片野佐知<br>子                           | 芦澤美香                                  |
| 17 | 平成27年11月21日<br>(土)<br>11:30～14:30 | 3 | ムンド・デ・アレグリア学<br>校 | 31人 | 書道        | 漢字学習をした後に、好きなことばを<br>とめ・はね・はらいに注意して書く                                           | 松浦圭子                                |                                       |
| 18 | 平成27年11月21日<br>(土)<br>11:30～14:30 | 3 | ムンド・デ・アレグリア学<br>校 | 47人 | 料理        | あんこをつかったお菓子づくりを体験<br>する。                                                        | 長谷川晃<br>子                           |                                       |
| 19 | 平成27年11月23日<br>(月)<br>10:30～12:30 | 2 | ムンド・デ・アレグリア学<br>校 | 48人 | ダンスプロジェクト | ダンス練習。成果発表会に向けた案内<br>用ポスターの制作を引き続き行<br>い、日本語でプレゼン。                              | 前川ヒデキ<br>三宅ひかる                      | 出野利明<br>岩崎 璃乃<br>前川 佳穂<br>坂下 歩惟<br>村田 |
| 20 | 平成27年11月23日<br>(月)<br>13:00～15:00 | 2 | ムンド・デ・アレグリア学<br>校 | 13人 | 防災教室      | 避難行動マニュアルを使用し、浜松<br>市の被害予想をチェック                                                 | 鈴木直之                                | タケハナエ<br>ルザ                           |
| 21 | 平成27年12月15日<br>(火)<br>10:30～12:30 | 2 | ムンド・デ・アレグリア学<br>校 | 17人 | ダンスプロジェクト | ダンス練習。クロスワードパズルをと<br>おし、日本語で考え、日本語を書く練<br>習。                                    | 前川佳穂<br>坂下歩惟                        | 芦澤美香<br>タケハナエ<br>ルザ                   |
| 22 | 平成27年12月16日<br>(水)<br>13:00～15:00 | 2 | ムンド・デ・アレグリア学<br>校 | 23人 | 防災教室      | 119番通報訓練、心肺蘇生講習。AEDの<br>基礎知識、救命処置の流れを日本語での<br>助けの求め方、心臓マッサージとAEDの<br>使用訓練。      | 浜松市西区<br>消防局、鈴<br>木直之<br>芦澤美香       |                                       |
| 23 | 平成27年12月23日<br>(水)<br>10:30～12:30 | 2 | ムンド・デ・アレグリア学<br>校 | 32人 | ダンスプロジェクト | 地元浜松の踊りを浜松在住外国人が、日<br>本人学生に教えることで、自分の言いた<br>いことを日本語で伝える                         | 前川佳穂<br>三宅ひかる                       | 芦澤美香<br>タケハナエ<br>ルザ                   |
| 24 | 平成27年12月23日<br>(水)<br>13:00～15:00 | 2 | ムンド・デ・アレグリア学<br>校 | 15人 | 防災教室      | 避難地までの経路をたどり、実際に<br>要する時間、道順、考えられる危険<br>箇所を知る。                                  | 鈴木直之<br>芦澤美香                        | 前川 佳穂<br>三宅 ひか<br>る                   |
| 25 | 平成28年1月7日<br>(木)<br>9:30～11:30    | 2 | ムンド・デ・アレグリア学<br>校 | 29人 | 書道        | 日本語の語彙学習をした後、好きな<br>ことばをとめ・はね・はらいに注意して<br>日本語で書く。                               | 松浦圭子<br>出野利明                        |                                       |
| 26 | 平成28年1月11日<br>(月)<br>10:30～12:30  | 2 | ムンド・デ・アレグリア学<br>校 | 40人 | ダンスプロジェクト | 地元浜松の踊りを浜松在住外国人が、日<br>本人学生に教えることで、自分の言いた<br>いことを日本語で伝える                         | 岡則子<br>(1時間)<br>坂下 歩惟<br>前川 ヒデ<br>キ | 芦澤美香<br>出野利明<br>村松 飛鳥                 |
| 27 | 平成28年1月11日<br>(月)<br>13:00～15:00  | 2 | ムンド・デ・アレグリア学<br>校 | 47人 | 新年会       | 羽子板づくりを体験し、日本の正月<br>の遊びに触れる。                                                    | 出野利明                                | タケハナエ<br>ルザ<br>村松 飛鳥<br>オザワ ア<br>ウロ   |
| 28 | 平成28年2月2日<br>(火)<br>13:00～15:00   | 2 | ムンド・デ・アレグリア学<br>校 | 14人 | 防災教室      | 地震について、学習した知識をまと<br>め、学習者同士で日本語を使って発<br>表。                                      | 鈴木直之<br>芦澤美香                        |                                       |
| 29 | 平成28年2月11日<br>(木)<br>10:30～12:30  | 2 | ムンド・デ・アレグリア学<br>校 | 38人 | ダンスプロジェクト | 成果発表会リハーサル。司会のこと<br>ば、ダンス、ポスター発表等確認。                                            | 三宅ひかる<br>前川ヒデキ                      | 芦澤美香<br>出野利明                          |
| 30 | 平成28年3月2日<br>(水)<br>9:30～12:30    | 3 | ムンド・デ・アレグリア学<br>校 | 33人 | お琴        | 日本の伝統楽器であるお琴に触れ、<br>「さくらさくら」を演奏してみる。                                            | 赤木静香                                |                                       |
| 31 | 平成28年3月9日<br>(水)<br>9:30～11:30    | 2 | ムンド・デ・アレグリア学<br>校 | 25人 | 書道        | 語彙を学習した後、自分で好きなことばを<br>選ぶ。手本のとおりに書く「習字」ではな<br>く、ことばに想いを乗せ、自分流に筆を動か<br>く「書道」を体験。 | 鈴木和美                                |                                       |

(7) 特徴的な活動風景(2～3回分)

活動例①

【第19回 ダンスプロジェクト+日本語活動 平成27年11月23日】

グループに分かれ、「雄踏おんがくまつり」のポスターを作る。出来上がったポスターについて各グループの代表者が日本語でプレゼンを行い、最もいいポスターを投票で選ぶ。



活動例②

【第11回 防災教室 平成27年9月23日】

新聞紙でつくるスリッパ

災害時、くつがない場合に、足を怪我しないように新聞紙でスリッパを作る。そして、実際に、スリッパがない場合とある場合ではどのくらい違うかを体感してみる。



(8) 目標の達成状況・成果

ダンスプロジェクトにおいては、以下の成果が挙げられる。

- (1)複合的な成果を生み出し得るような場面設定ができた。
- (2)様々な日本語レベルの者が介していることで、日本語のわかる者がわからない者へ自然と手助けができる場づくりができた。
- (3)進行役である学生が、自然に「やさしい日本語」を使うことができた。
- (4)通常であれば外国人と関わることのない大学生もダンスプロジェクトに参加することで外国人と関わりを持つことができた。

(9) 今後の改善点について

・防災教室の活動内容も毎年レベルアップしてきてはいるが、もっと開催していることを地域住民にも発信し、理解を得ることが

必要である。その意味においては、本取組において、当初の目標である「つどう」「まなぶ」は達成できたものの、「むすぶ」と

いう点においては十分に達成することができなかった。

## 8. 事業に対する評価について

### (1) 事業の目的・目標

「生活者としての外国人のための日本語教育事業」地域日本語教育実践プログラムBにおいては、日本語習得という言語面だけでなく、「生活者としての外国人」を日本の社会へどのように「繋ぐ」ことができるかという体制づくりが大きな事業目的である。本事業では、以下を目標とし事業を実施する。

1. 定住外国人と日本人がお互いを知り、理解し合い、外国人が出来るだけ摩擦が少なく日本社会に参加できるように、日本語を通じた相互理解・協働活動できる機会を創出する。
2. 日本語指導だけでなく、日本社会の常識・マナー・習慣などを伝えることで、社会の中で役立つ適切な日本語の運用能力の向上を目指す。
3. 次世代を担う日本語能力のある定住外国人が日本人と共に積極的に本事業の企画・運営に関わらせる機会を創出し、主体的に共にひとつの活動に取り組む過程で日本語運用能力を磨き、日本語指導の必要な外国人に対する支援が出来るような外国人リーダーの人材育成を目指す。
4. 大学生の日本人を中心に外国人と共に行うプロジェクトワーク、及び日本語支援を通して学んだことを外部発信することで、地域住民の外国人・異文化への理解を促進する。
5. これらの外国人・日本人住民が共に取り組む事業を地域の自治体をはじめとする関係機関を巻き込んで実施することにより、外国人住民の状況や日本語教育の必要性や学習の成果・効果を広く住民に周知することで、日本語教育の体制整備への土台を構築する。

### (2) 目的・目標の達成状況

2015年度においては外部発信の手段としてこれまでのシンポジウムのような日本語教育・多文化共生に興味のある人を対象としてものではなく、「おながくまつり」というイベントを実施することで、これまで全く外国人と関わりのない人たちの参加を募り、外国人のことを少しでも知ってもらうきっかけを作ることができた。また、地元の団体にイベントに出演していただいたり、広報を自治会・近隣小・中・高校にお願いしたりなど、地元でイベントを開催することによって様々な人々の協力を得ることができた。さらにイベントの計画・実施を第2世代を担う日本人と外国人が話し合いながら実施することで、日本人・外国人とも多くの学びがあった。

### (3) 地域における事業の効果、成果

「雄踏おながくまつり」に「雄踏吹奏楽団」「少女和太鼓魁鼓」などの地元の団体の参加により、当該団体のメンバーの方のご家族が来られたことで、これまで全く外国人と関わりのなかった人々がイベントに足を運ぶ機会を作り、外国人の子どもたちの発表も見てもらえたことは、より多くの日本人に異文化理解を促すきっかけ作りをすることができた。

### (4) 地域の関係者との連携による効果、成果

「雄踏おながくまつり」の開催に向けて、地元の吹奏楽団、和太鼓の団体には出演協力、自治会・近隣小・中・高校にはイベント参加への周知・広報協力、大学生にはプロジェクトワーク及びダンスプロジェクトへの参加協力をお願いした。

### (5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

周知・広報活動については、  
地元雄踏自治会各家庭に浜松市広報と共にチラシを配布  
近隣の公立校にチラシ配布（雄踏小学校・雄踏中学校・湖南高校）  
近隣のコンビニ・ブラジルレストランにチラシ掲載  
浜松市外国人学習支援センターにチラシをおいてもらった。  
事業成果の地域への発信については、  
「おながくまつり」のイベントのダイジェスト版を作成し、第2世代を担う日本人と外国人の成果物として発信していく。

### (6) 改善点、今後の課題について

①現状 2015年度の取組においては、2014年度の活動予定としていた、第2世代を担う日本人と日本語能力のある外国人が自ら企画・運営しながら、地域住民の方々と折衝を行い成果物を発表できるような取組については、ダンスプロジェクトと「雄踏おながくまつり」の開催において実現できた。2015年度で実施した「雄踏おながくまつり」の開催は、受け身の日本語教育ではなく、日本人と外国人がまさに協働しながら、一つのプロジェクトを成し遂げることができた。「雄踏おながくまつり」という具体的なイベントを実施したからこそ、地元の団体、自治会、近隣の公立学校への協力も得ることができた。

②今後の課題 上記のような取組を実施していることをもっと広く、より多くの人々に周知していく必要がある。

③今後の課題解決に向けた活動予定 本取組で実施したような日本人と外国人が協働活動しながら、成果物を作成したり、発表したりする活動は今後相互理解・多文化共生においては必要不可欠なものである。このような取り組みを継続実施すると共に、活動をより多くの人々に周知できる方法を検討する必要がある。

### (7) その他参考資料